

令和5年7月3日

通知表作成の思い出

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

採用一年目1学期末、初めて作成する通知表の時期となり、私はとても憂鬱でした。そんな折、先輩教師が晩ご飯に誘ってくださいました。

お酒の力も借りて思い切って先輩に尋ねました。「先生は通知表の所見欄を記入するのがつらくありませんか。私はとても苦しいのです。私の指導力のなさで悪い成績をもらう子どもがいるのですから。」

先輩は次のように話されました。「今の気持ちを忘れるな。成績の悪かった子が、よくなるにはどうしたらいいかな。見取り方やその手立てはどうするかな。特に気をつけて指導していることがあれば、それをそのまま保護者に伝えたらいい。協力を求めなさい。成績のよかった子どもにはその子のがんばりを認め、更に伸ばしてほしいと伝えなさい。自分の言葉で具体的に伝えてあげなさい。それが通知表の目的だからね。まあ、飲め。」

35年も前の話ですが、現在とある町の教育長をされている先輩のお言葉を今でも鮮明に思い出します。

令和5年7月6日

豊かな表現力の育成を目指して

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

私は南日本新聞社の子供のうた、若い目欄を読むことを日課にしています。子どもたちの清らかな瑞々しい感性に感動し、すがすがしい気持ちで一日のスタートを切っています。子どもたちの作品から多くのことを学んでもいます。

本県教員に採用されて以来、担任する子どもの作品を投稿してきました。掲載されると反響も大きく、子ども自身はもちろんのこと、学校の励みや自信にもつながりました。また、保護者や地域の方々からの称賛や喜びの声が届くと、更にその子どもの表現意欲も高まり、表現技能の向上にも役立ちます。

本校でも豊かな表現力の育成に向けて様々な取組を行っています。新聞投稿もその一環になればいいと考えています。子どもたちが日々感じたことや思ったこと、考えたことなどを目的意識や相手意識を持って、感性豊かに文章で表現してほしいと思います。本校の子どもたちの作品が掲載されることを楽しみに、これからも毎朝、新聞を開きます。

令和5年7月7日

短冊に願いを込めて天の川

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

学校の図書室に七夕の願い事を書くコーナーが設置されています。短冊をのぞいてみると「動物園の飼育員さんになれますように」「パティシエになれますように」「ソフトボールが上手になりますように」「中学生になったら友達がたくさんできますように」等々、思わず微笑んでしまう、かわいらしい願い事がたくさん書かれていました。

令和を生き、令和の社会を創る担い手となる子どもたちです。それぞれの夢や願いに向かって、今後も努力を続けてほしいと思います。日々の努力や頑張りが、きっと未来に通じると信じています。人生は日々の積み重ねであり、振り返った時に過去は思い出としてきっと輝くはずです。小さな成功体験を多く積み、自己有用感を実感し、自己肯定感を自ら高めてほしいと思います。

小学校生活を楽しく、そして、よき思い出をたくさん作ってほしいと改めて思いました。私は「みんなの願い事が叶いますように」と短冊にしたためておきました。

令和5年7月10日

瀬世のサガデコで想ったこと

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

7月8日、瀬世中地区の伝統行事であるサガデコを見学させていただきました。

サガデコとはハゲドツ（半夏生）に行われる病魔よけの伝統行事です。サガとは、夏に流行する伝染病で主に赤痢のことです。子どもたちが「キュウ（今日）は田植えあがいのハゲドーツ、ハゲドツ（半夏生）」「バツバ（おばさん）、キュウはハゲドツじゃっどー」と声をかけながらホラ貝を吹き、鐘をたたき、「サガデコ、コデコ」とかけ声をかけながら笹を振り、集落を清めてまわります。地区や家の入り口には、子どもたちが作った病魔よけのヤツデを差したしめ縄を張ります。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となったサガデコに参加した子どもたちは、しめ縄作りの難しさも体験しました。

私はその当時の人々の切実な願いを再認識するとともに、伝統行事の価値を学びました。校区には多くの伝統行事が残っています。それらを学び、継承し、地域を誇りに思う子どもたちに成長してほしいと思いました。

令和5年7月13日

充実した夏休みに

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

あと一週間で子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。家族と過ごした夏休みの思い出は貴重な人生の財産になるはずですが、旅行やイベント等、特別なことではなくても、家庭での手伝いやふれあい、何気ない親子の会話を大切にしてほしいと思います。

子どもが感じる時間の長さや大人のものとは違いがあると言われる。時間を体感する長さが大人と子どもでは異なるのです。子どもは様々なものに興味を抱き、不思議に思い、疑問を感じ、考える時間が大人よりも長くなります。それで、時間の過ぎ去る感覚が大人よりも遅く感じられるというわけです。

夏休みはお子様も家庭で過ごす時間が長くなります。早く学校が始まればいいのにと、今からそう思っている保護者の方がいるかもしれません。しかし、子どもの興味や関心、疑問とうまく向き合い、保護者にも短いと感じられる夏休みになればいいなと思います。なぜなら楽しい時はあっという間に過ぎ去ってしまうのですから。